

# 聞こえないってどんなこと？

聴覚に障害のある利用者の方とのコミュニケーションのヒントにご活用ください  
不定期ですが、シリーズでお届けします。



## ひとくちに「聴覚障害者」といっても??

「生まれつき耳が聞こえない」「大人になってから病気で耳が聞こえなくなった」あるいは「高齢になり耳が遠くなった」など、聞こえの状態は人によってさまざまです。  
ポイントになるのは「どんなコミュニケーション方法が伝わりやすいのか」  
生まれつきや幼少期に失聴し、ろう学校に通った方は手話を使う方が多いですし、普通校に通った方や中途失聴者は口話(はっきり口を動かす)や筆談が良い方もいます。  
大切なのはその方の背景を知り、どんなコミュニケーション方法が良いのかをご本人に確認すること、そして、聞こえない方が「参加」できる環境を作ることです。こちらの話が通じることももちろんですが、聞こえない方が言いたいことを言える環境や、手段、雰囲気がいちちゃんと確保されているか、これも大切なポイントです。

## 筆談は漢字とひらがなどちらが良いの？

どちらがわかりやすいですか？

A：きんえんせきでよろしいですか B：禁煙OK？

答えはB。筆談のときのポイントは要点をシンプルに書くこと。

Aは話し言葉のとおり書いた例ですが、文章として読むと意外とわかりにくいですよ。

丁寧に書いたつもりが、逆にわかりづらくさせることもあります。

特に、学齢期前に聞こえなくなった方の中には、音として言葉を聞いたことがない方も多く、

「きんえん=禁煙」と結びつかないことも。表意文字である漢字の方が伝わりやすいことも多いです。

身振りも一緒に  
視線を合わせて確認  
OK?は  
便利なサインです



## ひとこと手話

「おめでとう」は、  
下から上へ指先をふんわり広げながら動かします。新年のごあいさつに、是非やってみてください



あけまして



おめでとうございます



←こちらから動画もご覧いただけます (YouTubeに接続します。機種によって対応不可な場合はご了承ください)

発行元・お問い合わせ

横浜ラポール  
聴覚障害者情報提供施設

横浜市港北区鳥山町1752  
(TEL)045-475-2057  
(FAX)045-475-2059

